



2024年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年8月10日

上場会社名 株式会社 秀英予備校
コード番号 4678 URL <https://www.shuei-yobiko.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡辺 武
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 渡辺 喜代子

TEL 054-252-1792

四半期報告書提出予定日 2023年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	2,007	3.2	463		459		474	
2023年3月期第1四半期	2,074	1.8	451		448		460	

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 474百万円 (%) 2023年3月期第1四半期 460百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	70.73	
2023年3月期第1四半期	68.68	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第1四半期	9,424	4,171	44.3	621.75
2023年3月期	10,169	4,713	46.4	702.51

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 4,171百万円 2023年3月期 4,713百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		10.00	10.00
2024年3月期					
2024年3月期(予想)		0.00		10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,920	0.5	335		325		352		52.46
通期	11,010	2.7	450	11.4	465	14.4	325	91.8	48.43

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期1Q	6,710,000 株	2023年3月期	6,710,000 株
期末自己株式数	2024年3月期1Q	319 株	2023年3月期	319 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期1Q	6,709,681 株	2023年3月期1Q	6,709,681 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におきましては、3年余りに及んだ新型コロナウイルス禍がようやく収束しましたが、国内産業、特に地方の中小企業は業績に大きな痛手を被るところとなりました。また、長びくロシアのウクライナ侵攻によって原料・エネルギー価格が上昇し、物価高・インフレ状況となっており、国内の消費活動は停滞するところとなっております。

当業界におきましては、市場規模はほぼコロナ禍前に回復するところとなっております。コロナ禍を通しての業界の大きな変化は、オンラインを利用した映像授業と授業以外の教育サービスの導入が進んだことであります。

当社におきましては、それぞれの学力層に対応した授業、集団・個別・映像などの多様な学習形態の提供、授業以外の教育サービスの拡充を図ってまいりました。しかしながら、小中学部においては前期末に11校舎閉鎖したことを要因として、前年を下回る生徒数・売上高となっております。また、高校部におきましても高3受験学年の減少により、前年を下回る売上高となっております。

当社グループの経営の柱は、

① 小中学部

- (i) 集団部門は、受講基準とクラス定員の設定、学力別クラス編成により授業の質を高めること
また、授業以外の教育サービスを向上させ、成績・合格実績を上げること
- (ii) 個別(講師・映像)部門は、新差別化戦略を進化させ顧客満足度を向上させること
- (iii) 小学生英語の教科化に対応し、低学年からの生徒数確保を図ること

② 高校部

- (i) 正社員教師を中心とした少人数クラスできめ細やかな教育サービスを提供すること
- (ii) 高校別クラスの設定などにより推薦入試にも対応すること
- (iii) 多様なニーズに対応した授業形態を提供すること

であります。

当第1四半期連結累計期間におきましては、小中学部は、年間の業績に直結する夏期講習の一般生募集を最重点課題として取り組んでまいりました。今年度は、夏期講習価格の改訂に伴い、より学習意欲の高い講習生に受講いただいております。学習意欲の高いニーズに合致したサービスの提供を実施する計画であるため、夏期講習明けの入学率の上昇を計画しております。高校部は、夏期一般生募集と9月入学生の確保及び9月入学者数の状況に対応した方策を計画しております。

営業費用におきましては、電気料金の値上げによる水道光熱費の増加があるものの、教材費及び事務用消耗品費等の削減により、全体として減少するところとなりました。

営業外損益におきましては、有利子負債の減少に伴い、支払利息が減少しました。

特別損益におきましては、前期末閉鎖校舎の原状回復工事期間が延びたことにより、その期間の賃借料等を店舗閉鎖損失引当金繰入額として計上しております。

以上の結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は2,007百万円(前年同四半期は2,074百万円)、営業損失は463百万円(前年同四半期は営業損失451百万円)、経常損失は459百万円(前年同四半期は経常損失448百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は474百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失460百万円)となりました。

なお、季節的変動要因として、当社グループの生徒数は、小中学部・高校部ともに夏期講習・冬期講習等の講習に参加した一般生がそれぞれ9月、1月に入学するため、第2四半期以降に増加するところとなっております。一方、営業費用につきましては、人件費・賃借料等が毎月固定的に発生いたします。したがって、第1四半期の収益性は第2四半期以降に比べて低くなっております。

セグメントの業績を示すと次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、前期まで「その他の教育事業」に含めておりました自宅学習部門につき、営業管理体制をより強固にするため組織変更を行いました。それに伴い、前期までの自宅学習部門の実績につきましては、報告セグメントの区分を「小中学部」に変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

(小中学部)

小中学部におきましては、集団部門の生徒数は順調に増加傾向となっており、ほぼ予算通りの生徒数となっております。一方、個別・映像部門の生徒数が、前年及び予算数を少し下回るようになっております。営業費用につきましては、通信費、教材費、事務用消耗品費等の削減をしたことにより、予算を大きく下回るようになっております。結果として、小中学部の売上高は1,707百万円(前年同四半期は1,761百万円)、セグメント損失は197百万円(前年同四半期はセグメント損失214百万円)となりました。

(高校部)

高校部におきましては、ほぼ予算通りの売上高となっております。営業費用につきましては、事務用消耗品費等の削減により、予算を下回るようになっております。結果として、高校部の売上高は277百万円(前年同四半期は300百万円)、セグメント損失は21百万円(前年同四半期はセグメント損失2百万円)となりました。

(その他の教育事業)

その他の教育事業におきましては、対前年の売上高は大幅増加となっております。要因は、高校生を対象としたライブのオンライン授業の導入による売上高が増加したからであります。結果として、その他の教育事業の売上高は22百万円(前年同四半期は12百万円)、セグメント損失は17百万円(前年同四半期はセグメント利益2百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて674百万円減少し、1,844百万円となりました。これは主として、季節的変動要因において第1四半期の収益性が低くなることにより現預金が減少したためであります。また、3月新年度入学生の初回授業料及び春期講習受講料の回収により、売掛金も減少しております。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて69百万円減少し、7,573百万円となりました。これは主として、前期末に閉鎖した校舎を売却したことにより土地が減少したこと、建設協力金が回収されたためであります。

この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べて744百万円減少し、9,424百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて119百万円減少し、2,405百万円となりました。これは主として、短期借入金金の返済が進んだこと、法人税等の納付があったためであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて83百万円減少し、2,847百万円となりました。これは主として、長期借入金の返済が進んだためであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べて202百万円減少し、5,253百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて541百万円減少し、4,171百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の46.4%から44.3%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては2023年5月10日に公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想の変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,961,660	1,384,297
受取手形、売掛金及び契約資産	126,136	49,644
商品	80,082	71,153
貯蔵品	14,077	14,570
その他	341,143	327,203
貸倒引当金	△4,518	△2,602
流動資産合計	2,518,580	1,844,267
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,361,290	2,376,018
土地	3,145,363	3,104,595
その他(純額)	66,776	61,437
有形固定資産合計	5,573,429	5,542,050
無形固定資産		
	34,886	26,751
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,746,994	1,721,634
退職給付に係る資産	200,272	201,250
その他	90,804	85,104
貸倒引当金	△3,245	△3,179
投資その他の資産合計	2,034,825	2,004,809
固定資産合計	7,643,142	7,573,611
繰延資産		
社債発行費	7,394	7,018
繰延資産合計	7,394	7,018
資産合計	10,169,117	9,424,897
負債の部		
流動負債		
短期借入金	290,000	160,000
1年内償還予定の社債	40,000	40,000
1年内返済予定の長期借入金	235,996	232,396
未払金	569,583	548,985
未払法人税等	134,158	28,715
契約負債	570,836	632,768
賞与引当金	163,568	47,477
店舗閉鎖損失引当金	46,496	22,696
その他	474,202	692,589
流動負債合計	2,524,842	2,405,628

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
固定負債		
社債	160,000	160,000
長期借入金	282,154	224,285
繰延税金負債	69,587	68,850
退職給付に係る負債	928,373	926,272
資産除去債務	614,274	635,959
その他	876,211	832,138
固定負債合計	2,930,601	2,847,504
負債合計	5,455,444	5,253,133
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,089,400	2,089,400
資本剰余金	1,835,655	1,835,655
利益剰余金	803,593	261,864
自己株式	△154	△154
株主資本合計	4,728,494	4,186,764
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	△14,821	△15,000
その他の包括利益累計額合計	△14,821	△15,000
純資産合計	4,713,673	4,171,764
負債純資産合計	10,169,117	9,424,897

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年6月30日)
売上高	2,074,651	2,007,336
売上原価	2,164,784	2,113,555
売上総損失(△)	△90,133	△106,218
販売費及び一般管理費	361,443	357,452
営業損失(△)	△451,577	△463,671
営業外収益		
受取利息	2,250	1,855
受取賃貸料	4,036	6,612
その他	6,492	2,491
営業外収益合計	12,779	10,959
営業外費用		
支払利息	6,625	4,262
その他	2,647	2,118
営業外費用合計	9,272	6,380
経常損失(△)	△448,070	△459,091
特別損失		
店舗閉鎖損失引当金繰入額	-	3,560
特別損失合計	-	3,560
税金等調整前四半期純損失(△)	△448,070	△462,651
法人税、住民税及び事業税	12,978	12,718
法人税等調整額	△181	△737
法人税等合計	12,797	11,981
四半期純損失(△)	△460,867	△474,632
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△460,867	△474,632

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年6月30日)
四半期純損失(△)	△460,867	△474,632
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	△60	△178
その他の包括利益合計	△60	△178
四半期包括利益	△460,928	△474,811
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△460,928	△474,811
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			
	小中学部	高校部	その他の教育事業	計
売上高				
集団(黒板を使った集団授業)	911,834	287,947	—	1,199,782
iD(映像を使った個別授業)	235,191	—	—	235,191
個別(講師による個別指導)	604,434	—	—	604,434
その他	9,803	12,775	12,663	35,243
顧客との契約から生じる収益	1,761,264	300,723	12,663	2,074,651
外部顧客への売上高	1,761,264	300,723	12,663	2,074,651
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	4,892	4,892
計	1,761,264	300,723	17,555	2,079,543
セグメント利益又は損失(△)	△214,014	△2,839	2,284	△214,570

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	△214,570
セグメント間取引消去	7,018
全社費用(注)	△244,025
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△451,577

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			
	小中学部	高校部	その他の教育事業	計
売上高				
集団(黒板を使った集団授業)	925,914	269,209	—	1,195,124
iD(映像を使った個別授業)	187,175	—	604	187,779
個別(講師による個別指導)	588,272	—	—	588,272
その他	6,079	8,645	21,435	36,160
顧客との契約から生じる収益	1,707,442	277,855	22,039	2,007,336
外部顧客への売上高	1,707,442	277,855	22,039	2,007,336
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	4,595	4,595
計	1,707,442	277,855	26,634	2,011,932
セグメント損失(△)	△197,289	△21,675	△17,658	△236,623

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	△236,623
セグメント間取引消去	8,756
全社費用(注)	△235,803
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△463,671

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、「その他の教育事業」に含めておりました自宅学習部門につき、営業管理体制をより強固にするため組織変更を行いました。それに伴い、前期までの自宅学習部門の実績につきましては、報告セグメントの区分を「小中学部」に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分方法により作成しております。